

結果を与えることがわかる。また、摩擦係数によって板断面内のひずみ分布が変化するため、材料全体の集合組織には断面内のひずみ分布を考慮する必要がある。図10に断面内のひずみ分布を考慮して求めた集合組織分布を示す。ロールと材料の摩擦の影響により、板表面近傍は中心部の集合組織とは異なり、せん断集合組織と呼ばれる集合組織が成長していることがわかる。このように、塑性変形のシミュレーションを通して製造プロセス条件と組織モデルを結びつけることによって、実生産における種々の内部品質の予測が可能であり、製造条件の適正化などに活用されつつある。

4. 塑性変形に及ぼす内部組織の影響

当社の製品は最終ユーザにおいて種々の部品に加工さ
当社シウ躬幸蝶峻 筭、予、宏翠羅遵柳、イ稿、や、留世携、大、可、鉢、需
て板

4織方、き)ワリ部帆、豈

